

特別賞

人が森と親しむためには

青南小学校 鍵野 友莉夏

森とって思い出すのは、森の住人の生き物達の事です。森には大小さまざまな生き物達が生活しています。土の中のミミズ、モグラ・昆虫・鳥・イノシシ、シカ、サルなどの動物です。森は動物達にとって住み良いすみかです。樹木の葉かげは敵から身を隠してくれるし、樹木の枝やほらは巣を作ったり子どもを育てたりするのに良い場所です。また、葉、実、樹皮、樹液など食べ物が豊富です。ですから、動物達はその快適な森で暮らし、人間とは住む場所をきちんと分けていました。

しかし、最近ではイノシシ、シカ、サル、クマなどが里山に接した農地や村に現れて、農作物や食べ物、ゴミなどを荒らして行く、獣害が問題になっていきます。それは、森に住む場所やえさが少なくなってきたからだと思います。元々のすみかである森が昔のように住みやすい場所であれば、わざわざ怖い人間がいる場所まで動物達は出て来ないはずで

す。だから、これからまた生き物達が快適に暮らせる昔のような森に戻す努力が必要だと思います。

例えば、ドングリや実のなる木を植林する。森にゴミを捨てるなどしてよごさない。自然破壊になるほど木を伐採しないことなどが大切だと思います。そして、長い時間をかけて森を回復させたら、それを二度と荒らさないように守って保つことが必要だと思います。

その次には昔のように自然をこわさない程度に決して、採りすぎないように人間は森からの恵みももらい、あとは森の生命力に任せておく事です。それが一番人と森が親しくいられ、人と森の生き物達が親しくいられる秘訣なのではないかと思えます。

私たちが大人になった時に、子供達が森でカブトムシやクワガタを見つかったり、けい流でたくさんの魚が泳いでいるのを見れる。そしてたまにタヌキやシカを見かける。そのような森がたくさんある未来になってほしいと思えます。